

令和4年度第2回大府市ふれ愛サポートセンター運営委員会議事録(要点記録)

開催日時 令和5年1月12日(木) 10:00~11:00

開催場所 ふれ愛サポートセンター 多目的ルーム1~3

出席者 ※敬称略

有料老人ホームさわやかなの丘 施設長	中 隆之
大府リフレッシュクラブ	下村 洋子
校長会代表	岡村 雅浩
公募委員	西脇 直美
大府福祉会あけび苑 管理者	平林 政明
大府市民生児童委員協議会 副会長	倉元 須麻子

事務局 福祉部 部長	猪飼 健祐
福祉総合相談室 室長	小清水 崇
子ども未来課子ども支援係 係長	川出 陽一
学校教育課学校総務係 係長	坂野 晴仁
レインボーハウス	蟹江 修
大府市高齢者相談支援センター 副管理者	藤崎 あかり
ふれ愛サポートセンター 館長	大河内 憲
主任	松原 睦
欠席者 大府市障がい者相談支援センター 管理者	竹内 美喜

傍聴人 なし

1 あいさつ

2 議題

(1) 利用登録団体の申請、審査結果について

- 資料No.1に基づき事務局より説明—
- 質疑なし—

(2) 令和4年度の利用実績について

- 資料No.2に基づき事務局より説明—
- 質疑応答—

委員長： 貸館の実績がコロナ禍前の状況に戻ってきているというのは良かった。今後について、人数制限ありきの運用で進めていくということによろしいか。

事務局： 現時点では、コロナ感染の状況によって人数制限の有無を決めている。今日現在、各部屋の人数制限をしていない。各団体で自主時に感染症予防対策の一環として一回の活動人数を制限しているため、利用人数が少し減っている。

今後、まん延防止策や緊急事態宣言等が発令された場合は各部署の人数制限を設けたり、その都度ルールを変えて活動していただく予定。

委員長： ある程度の限度が来た時には施設から働きかけるが、それ以外には各団体の自主的な人数制限に任せる姿勢で行くということが良いか。

事務局： 現段階では各団体が意識高く行ってくださっているため、お任せしている。

事務局： 市の方でもコロナ関係の会議体を週1回持っており、施設利用についてスピカ以外の市の施設も含め基準を持って大府市全体で対応をどうしていくか、というのを協議する場がある。

状況が大きく変わることがあれば人数制限をかける等、市民のみなさまに迷惑をかけることはあるかもしれないが、今のところそういったことは予定していない。自主的に行っているのが現状で、数字にも反映されていると考察する。

委員： 愛知県独自で行っているものもあるが、国が出す方向はあまり見られない。

事務局： 地域の自主性に任されているところもあり、市の方針を決めるのも他市町と足並みを揃えながら、感染を広め過ぎず、制限し過ぎずとバランスを取って行きたいと思っている。

(3) これまでの振り返りと今後のスピカの貸館について

—資料No.2に基づき事務局より説明—

—質疑応答—

①貸館稼働率について

委員： 多目的ルーム4の稼働率が少ないことがとてももったいない。夜や夕方に子供達の学習室として開放してはどうか。

事務局： ご提案のとおり、学習室として開放が出来ればまた一つ違った使用方法として部屋を活用できるのではないかと思うため、検討していけると良い。

ただ一方で、一般開放となると不特定多数の方が出入りする形になるため、現在のコロナ禍の状況では、国や県のガイドライン、それに基づく市のルールでは不特定多数が出入りするイベントについては特に気を付けるようにという位置づけになるため、そことの兼ね合いを考えながらの検討になるかと思う。

また、元々スピカは高齢、障がい、教育のカテゴリーに当てはまった、事前に登録した団体が予約をして使って頂くというルールになっているため、今のご提案を検討するにあたって、多目的ルーム4についてはルールから外れていくことになるため、そのルール自体をどう考えていけるかと言う点も一つの検討の材料になるかと思う。

委員： 教育というカテゴリーに入るのでは。

事務局： もちろん教育に当てはまる。ただ、「一般開放」ということをどういう形で位置づけるかによる。教育のカテゴリーに入った特定の団体が登録をして、その団体が多目的ルーム4を予約して開放するのか、それとも一般開放ということで予約を伴わない形にするとなると、今まで予約をしないと利用できなかった部屋を開放することになるため、そもそものルールの検討になるかと思う。

利用目的としては教育のカテゴリーに当てはまるため、カテゴリー自体は問題ないと思われる。

委員： 例えば、石ヶ瀬会館の敷地内で行っている寺子屋を利用している、勉強をしたい子の勉強する場がない。そういった子の自習室として利用できれば良いのではないかと思った。シルバーの職員が塾をやっているはずだが、部屋がすごく狭いので。

委員長： 現状の貸館ルールに則って行うのであれば、その団体が登録をして予約が出来れば良いのではないか。

事務局： 多目的ルーム4は空いていることが多いため、部屋の活用方法を模索し続けているところ。委員長の仰る通り、一つの団体がそういう目的で登録をして、その団体が毎日一定の時間帯を押さえておいてその中で使うという形であればルール上問題ない。ただし、コロナ禍の兼ね合いだとか、レインボーハウスの生徒数も増えてきているため、レインボーハウスの部屋の確保などとの兼ね合いも含めて、稼働率を上げられるよう考え方や手法を変えてやっていけたらと思う。

委員長： 今の発想で言うと、多目的ルーム1～3も15時から16時の間利用率がとても下がっているため、放課後クラブのような教育の活動系もアピールをしても良いのではないかと思った。

事務局： ご提案いただいた通り、スピカは利用が空いている時間帯があるので、頂いたご意見を参考にさせて頂いて活用の幅を広げていきたいと思う。

②貸館の予約方法について

事務局： 本来の方法では団体が予約のために二か月前の月初の朝に来館されていた。基本的に定期的に利用される団体同士で利用が重複しないように団体同士で調整していたが、それでも申請順ということがあるため心配して朝に殺到するという状況があり、現在はコロナ禍ということもあり、仮予約制を取っている。

これまで電話での予約は出来なかったが、電話で予約できるようになった。ただ、あくまで仮予約なので後から本予約をしていたくことになっている。定期利用団体については毎回電話していただくのは手間なので、こちらで予め決まった曜日に仮予約をつけておいて、本予約に来ていただくことになっている。

事務局： 予約のための電話が殺到すると本来の相談業務に支障があることが危惧される。これはあくまでコロナ禍における特別ルールと

いうことでずっと続くものではないと思うが、今のところトラブルは起きていないか。

事務局： 電話の殺到を避けるために、定期利用団体については電話を省いているというところがある。

委員長： 他市の施設ではネット上での予約体制になっているところが多い。団体登録をした上で、部屋自体は定期だから優先と言うことはなく、仮予約を入れて抽選会のようなものがある。通知がくる。(スピカの) 団体数からいくとそこまでということはないかと思うが。

事務局： 今現時点では重複してしまうことがないため、基本的には団体の希望通りに使える状況になっている。この人口規模、この施設の規模なのでそれがより良いかと考えている。ご発言のとおり、ネット予約を導入していくと、逆に重複することが出て来る。ただ、今後登録団体が増えて、申請順で受け付けるとなれば検討の余地があるかと思う。

委員長： 今はコロナ禍のため仮予約があるが、この制度がなくなるとまた早朝に並ぶといった団体の負担が出て来るが。

事務局： 今あくまでコロナ禍のルールではあるが、現時点で電話の殺到等トラブルは起きておらず運用が出来ている状況。感染状況が下火になった時に仮予約のルールを撤廃するのか、この運用がより良いのであれば残すのも一つの手ではないかと思い、意見を頂ければと思う。

委員： 今まで（の申請で）早く来るのはやはり責任があるので、もし取れなかったらどうしよう、という思いがある。もう10何年も。

委員長： そうなると、今の仮予約制の方法というのも一つかと思う。
市民に対する公平性という意味では、利用団体を固定していくというのは公平ではない。その時間に取りたい団体がいくつあっても、ルールを守れば公平に取れる、けれど、その時間が増えれば結局取り合いになって早く並ばなければならない、ということが発生する。

求めるところが、今いる団体が（今の団体が増えないという状況であれば）トラブルなく定期的に利用できるのを確保しましょう、ということであれば今のルールを継続しても良いのかと思う。

今後団体が増えた時に、予約が重複した際に公平な意味で利用を決めるルールがまた必要になってくる。それをどの立ち位置で委員のメンバーに議論していただくか、というのは提示しないと難しいと思う。

今の状況で今いる団体が困らず定期的にちゃんと予約をとれていくように予約制度をどうしていくか、という議論になっていると思われるが。

事務局： 開館当初からを見てきて、利用の重複が増えてきているという状況ではないため、現状のところでも上手く運用するためにコロナ

禍が過ぎた後も仮予約制を生かした方が良いのではないか、ということでお話させていただいた。ご指摘の通り、今後団体数が増えてきたところでは、予約制度の根本的な見直しが必要になってくるかと思う。

委員長： トラブルが発生してきた時、変化点で見直しをするという形を取っても良いかと思う。見直すという仕組みにしておくというのも手である。今は開館当初よりトラブルなし、という状況なので、現在の今いる団体をある意味優遇する形が今のところは良いのかと思う。

事務局： 今回のコロナ禍がちょうど協議をするきっかけとなったため、またコロナ禍がある程度落ち着いてきた頃にこの場をお借りして委員の皆様の見解を頂戴して基準を決めていけたらと思う。

委員長： 仮予約制については、現状はコロナ禍であるため、事務局の判断に任せていくということが良いか。

(反対意見なし)

変化が出てきた際には運営委員会の中で意見を集めたうえで判断していく。

3 その他

—なし—

—以上—